

第4回 観光交流拠点づくり推進委員会 会議録

日時 平成26年8月6日（水） 19時～21時10分

場所 羽咋市役所 2階 203会議室

出席者

委員：林 一夫（羽咋市商工会副会長）
川井 康子（観光ボランティアガイドこんちま羽咋副会長）
清水 篤郎（羽咋市観光協会宿泊委員会委員長）
粟木 政明（JAはくいのと里山塾課長）
中田 昌宏（羽咋青年会議所事務局長）
松村 克行：羽咋市町会長連合会理事
金田 純一（千里浜財産区管理委員会会長）
淡路 幸子（能越ケーブルネット営業部）
浅野 由美子（公募委員）
西東 恒信（公募委員）
オブザーバー：藤本 康司（石川県土木部道路建設課担当課長）
浅村 精一（石川県中能登土木総合事務所次長）
アドバイザー：濱 博一（石川県地域づくり協会専任コーディネータ）
市側出席者：備後 克則（企画財政課長）
川口 哲治（商工観光課長）
松田 義人（商工観光課係長）
木村 貴志（地域整備課技師）
コンサルタント：(株)日本海コンサルタント3人
会議傍聴者：なし

審議事項

1. 開会
2. 委員長あいさつ
（略）
3. 千里浜インター周辺整備の方向性
（1）千里浜インター観光交流拠点施設の場所選定について
事務局説明（略：別添会議資料参照）

【オブザーバー】

・7/31 と 8/3 の交通量調査であるが、夏季休暇期間ということで、年間の平均値とは異なるのは仕方ないと思うが、天気はどうであったか。なぎさドライブウェイは天候によって、交通量がかなり変わってくる。

【事務局】

・交通量の一番多い時期をカバーできるようなものがないと、駐車場が飽和してはいけないと考えている。
・羽咋市としては、なぎさドライブウェイについて、ゴールデンウィーク中と夏季期間の1週間を例年調査しており、その時期に合わせて実施した。
・両日とも天気はよく、交通量としては、おそらくピークに近い数値になっているのではないかと思う。

【委員長】

・一般的に考えると、ドライブウェイよりもユーフォリアの通行量の方が多いというのが現状なのか。(数値的にはそうである)

【委員】

・課題のところに示している常時左折可能レーンもしくは左折可能矢印信号の設置について、これはいい案である。千里浜住民の方々が、ユーフォリアからうまく右折できるのかという点が課題である。この近くに畑を持つ友人がいつも渡りにくいとお話している。

【事務局】

・輪島方面から降りてくる信号は短く設定してあり、その中でも、左折して里山海道に乗っていく人が多く混雑している。それを解消するための案である。

【オブザーバー】

・国道 415 号・249 号方面から来ると、車線が 2 つあると思うが、一番左は左折専用か。日常的には、左折がつながっている状況なのか。警察が交通規制については担当されている。
・能登空港から里山海道に乗るときに、常時左折可となっているような感じをイメージしているか。左折レーンはできているので、後は、左折可とするかどうかである。左折可にする際のルールがあると思う。
・渋滞で大変だとのことであるが、どの辺りまでつながっているものなのか。

【事務局】

・ゆ華前辺りまでである。

【委員】

・渋滞というよりは、ユーフォリア側から出られないという状況である。

【オブザーバー】

・左折可能になれば、ある程度解消されるということか。

【委員】

・これはいい案である。

【事務局】

・千里浜住民の方々にとっても、もともと出にくかった箇所が解消されることになるのではないかと考える。

【委員】

・当該箇所は、2レーンしかないが、能登方面へ行く方はどうなのか。

【委員】

・現状では、直進及び右車線はそんなに混雑していない。あくまでラッシュ時に金沢方面への車線が混雑している。

・左折する人は、その地点で止まっている必要性がない。スムーズに進めるようになればいい。

・内灘のところも、そのような形でスムーズに左折できるようになっている。

【オブザーバー】

・県内にも何箇所か、このように左折可能なレーンや信号がある箇所がある。

・何かしらのルールがあるはずなので、警察に確認が必要。

・前方から右折してくる車との優先の関係が明確になっていないからかもしれない。

・道路の構造的なものも手を入れないといけない可能性もある。

【委員長】

・いろいろな課題への対応方法について、市から提案されているが、他に質問はないか。

【委員】

・海岸に行く人のための歩行者専用レーンの確保についてであるが、ゆ華の人は反対側を通るケースが多い。

・歩行者専用レーンと言っているが、どのようなものであるか。

・なぎさドライブウェイから出てくる所であるが、歩く人はどこを歩けばいいか不明な状況になっている。はっきりとさせる必要がある。

【事務局】

・いったんユーフォリア側に渡ってもらう必要がある。左折可になると、そこを横断させるのは危険である。現状では、右側には横断歩道がない。

・現状では、車道の白線も見えにくい状況になっており、色を分けるなどの対応が必要と考えている。

・ドライブウェイから上がってくる車両が、砂を持ってくるので、白線も隠れてしまっている状況である。そこは明確にしないと、現在も危ない状況になっているので、この機に改善することも考えなければならない。

【オブザーバー】

・県道若部千里浜インター線には、全部に歩道があるか。

【事務局】

・歩道はあるが、横断歩道がない。

・自転車専用道も南北に走っているが、渡るための横断レーンさえない状況である。

【オブザーバー】

・危険を回避するために、外側だけの2本線のもので対応するケースもある。

【委員】

・場所がいいが、はまなす団地の前が冠水しやすい状況になっていることが問題。千里浜町会としても市へ要望として出しているが、この件もなんとかしないといけない。

・千里浜インターが市の玄関口であると言いながら、この箇所が難所になるというのではいけない。市に要望すると、県に要望するとの回答が返ってくる。観光客を市内へ誘導しようとする場合に、年間かなりの日数が冠水しているので、これを解消しないといけないと考える。

・ゆ華の排水も関連するのか。実際、この辺りの水は、インターの方へ流れるようになっていると思うが、どのようになっているのか。

・市の方で、大雨のときに、一度調査してもらいたい。水の行き場所がない。

【事務局】

・現在、千里浜町会から要望をいただいているのは事実である。一時市道だった時もあるが、県道になっているので、市の地域整備課から手順を踏んで調整をしている。

- ・ここを開発する際には、このような問題を解消することが前提であると考えている。
- ・県と調整させていただきたいと思っている。

【委員】

- ・景色（眺め）が気になる。眺めのいいものを作ってほしい。高いところから見れるものがあればいいと思う。里山海道の高さで6~7m。松林もあるので、最低でも10~15mの高さのものでないといけない。

【委員】

- ・高松のようであれば、単なる通過型のものになる。

【委員長】

- ・高松のように、土地があるという前提であれば可能かもしれないが、インターの形状変更や盛土などの対応が必要となると、膨大な予算や工期がかかる。
- ・立地場所について検討してきたが、効率的な施設の運営の仕方なども考えると、市が候補地に挙げている当該箇所でもよろしいでしょうか。

< 異論なし >

【委員長】

- ・用地については、当該用地とする。

(2) 羽咋市の観光交流拠点施設整備に係るコンセプトについて
事務局説明 (略: 別添会議資料参照)

【委員長】

- ・四万十ドラマは、考え方をつくる会社とあるように、基本的な考え方がしっかりしている。6年の売上累計で9億円、利用者数が90万人(年15万人)。
- ・ユーフォリアは年間19万人利用しており、同規模の利用者がある。
- ・前回の意見も踏まえて、ご意見をいただきたい。

【アドバイザー】

- ・四万十ドラマの事例をお話していただいた。また、郡上市の水野さんの例もある。
- ・突出した売売人が出た場合は郡上市の例になる。四万十は売れるための背景をかなり真剣に作りこんでいる。
- ・四国には、かなりおもしろい会社が多くあり、徳島県上勝町は葉っぱビジネスで成功している。葉っぱだけで数億円の売上を確保している。なぜそのビジネスなのかをかなり真剣に考え、地道に展開している。
- ・羽咋の道の駅について、最初から、運営主体をどうするのが大事であると言っている。それなりにやれば、それなりになる場所ではある。千里浜インター付近で、千里浜という資産があり、かなり恵まれている場所。
- ・羽咋市の再生の柱の1つであるとする、そんなレベルでの成功でいいのか。もっと、羽咋市やったよねというところを目指していかないといけない。うまくいけそうな所であるからこそ、逆に、心落ち着かせてコンセプトや資源は何なのかを考えていった方がいいと思う。
- ・変化の激しい時代なので、流行廃りだけを追いかけていくという大衆を相手にしたビジネスだと、疲れるビジネスになる。そのやや上の方々、自然環境などに興味を持ち、お金を惜しまずに、その道の駅に行こうと考えるような道の駅の整備が望まれる。
- ・ここの中で、実際のプレーヤーになる人が何人いるか。そここのところの接続がとれていない。実際運営をする人を交えながら、コンセプトワークをする必要がある。
- ・当委員会では、方向性だけを定めるコンセプトづくりで充分と考える。
- ・銀ぎら銀のUFOのような施設を作るのか、千里浜の防風林のようなものを大切に、木と自然の調和を図るような施設を作るのか、イメージが全く異なる。当委員会では、その方向性だけでできればいいと考える。

【委員長】

- ・商工会の委員会などで、資料を提示し意見を収集しているが、観光としてのビジネスとして成り立つようなもの(物販や飲食)についてや、レストハウスとの競合についての意

見は出る。

・しかし、成功事例や駅長のコラムなどを見ると、基本的な考え方については、地域の資源を掘り起こすことが必要であると感じた。

【委員】

・GIAHS（ジアス）の活用について。

世界農業遺産の認定は、先進国で初めてのことなので、明示できればいいと思う。コンセプトについて、人と宇宙人が共存できる町としたが、切り口をたくさん持っていればいいとの考えである。

・印象に残る映画というのは、名場面がたくさんあると言われる。羽咋として、どうしても伝え、発信していきたいことをブレない核として持つことは必要であると思うが、それを知ってもらうための切り口はたくさんあればいい。それをつなげていく作業が必要。

・GIAHSは、1つの切り口。世界遺産と世界農業遺産の違いは、世界遺産は昔からあるものを大切に守っていくことであり、世界農業遺産システムとは、未来につなげていく、未来志向で、昔からある土の上に新たに作っていくという意味が込められている。生物多様性というものもキーワードになるし、本気で取り組んでいる町であることが分かればいい。

【委員長】

・豊かな自然環境という考え方でいいか。健康や癒しも含まれると思うが、このようなニュアンスでいいか。

【委員】

・豊かな自然環境を守っていくことは必要であるが、自然栽培などは新たに生み出されていることであり、おもしろい取り組みである。健康などにもつながるし、羽咋に来れば、健康になれるというイメージでつけば、海外から来る人にも健康になれるという切り口もいいのではないかと考える。

【委員】

・濱先生の話や、事務局の報告を聞いていると、最高のものを目指すという考え方だと、大変重苦しいなと思ってしまう。消極的な意見になるが、実際にできるのだろうか、理想ばかり追い求めても...。と思ってしまう。とりあえず道の駅を作ってみること。そこから勉強しながら、進めてはどうかと思う。我々は専門家ではないので、もっと気楽な形で意見を言っていきたい。市として、どのくらいのお金を出せるのか。

・最初から日本一の道の駅を作るのか？いろいろな意見を聞いていると、そんな難しい道の駅なのかと感じてしまう。

・現実には、石川県内に23か所も道の駅がある。それらの道の駅がそんなに立派なのか。

・いい案を出せと言われれば言われるほど、何を狙っているのか。千里浜では無理だろう。消極的で申し訳ない。

【委員長】

・冠水のこのように、地元で生活している方じゃないと分からないことなどもあるので、ご意見をいただければと思う。

【委員】

・能登の玄関口としての機能。情報発信関連のものが入っていない。
・自家用車で来て、宿泊先を決めていない場合もある。情報を的確に提供できるかどうか。羽咋に行けば何とかなるだろうというような方法が必要と考える。
・情報発信に力を入れてやればどうかと思う。

【委員】

・道の駅といえば、何か変わったものが道から見えると人に伝えやすかったりするので、特長的なものがあればいい。
・砂像もどのような規模になるか分からないが、いくつかあれば「おお！」となる。夏場にレストハウスにはあるが、結構皆さんが見て写真を撮っている。維持管理はどうなるかは置いての話にはなるが、玄関口に砂像が3つあるとかというようなものがあればいいと思う。

【委員】

・道の駅を作るうえで、夕日や宇宙人を紹介していくような情報発信は、道の駅が整備されれば、していかなければならないことである。今決めていくうえで、どのような道の駅がいいかというと、木造で松林があり、趣のある道の駅を望む。自然と一体となった道の駅がいい。
・地元の特産品を考えてみたが、すぐに思いつかない。一度、どれだけの農産品で、どれだけの生産量があるのかなど調べて、資料提供いただければと思う。
・夏のスイカや岩牡蠣、冬の大根など。地元でも知らないものがあるかもしれない。
・自然栽培にしても、米などの生産量が増えていくのが心配。生産量は後々の商品づくりにも影響していくことである。

【委員】

・四万十の事例を見て気付いたことがある。道の駅の成功例を見ていくと、その道の駅を作った方々は、道の駅を作ろうと作ったのではなく、どうやったらこの町が活性化するかというシステムをまず作っている。そこに、たまたま道の駅的な施設が乗っただけ。

四万十のシステムの図があるが、事業計画のなかで販売所が乗っかって道の駅という名前がついた。道の駅という名前には、何の意味もない。

・この協議会は、このようなシステムを作らないといけないと正直思う。道の駅を考えても仕方がない。

・どのようなシステムがいいか考えてみたが、第1次産業が主な産業であり、この四万十のビジネスモデルと相性がいい。

・羽咋市の特産物を使うことはそんなに難しいことではないと思うが、加工品を作ることが課題だと思う。JAも加工品を手掛けているが、実際にこのような仕組みづくりは可能であるか。

【委員】

・JAはくだけでやろうと考えると限界があるが、地域の菓子製造販売店などの商店と協力・コラボして、商品開発を行っていけば可能であり、広がっていくのではないかと思う。

【委員】

・商品開発はJAはくいが担当して、商品流通に関しては、別の団体が行うというように、役割分担すれば、いい循環を生み出すことができると感じているとのことですね。(はい)

・こういう取り組みが1つ目のパターン。

・観光業者なので、地元いかに宿泊させるかということを見ると、羽咋市には夜のイベントがない。夜楽しめるものがないので、宿泊が弱いと言われている。羽咋市に足りないものは、夜楽しめる施設なのではないか。普通の道の駅であれば、物産販売されているような決まりきったイメージがあるが、夜楽しめるアミューズメント施設などがあれば、羽咋に足りないものなので、それだけで成り立つのではないかと思う。

・システムを作るような生産的な話をさせていただければと思う。

【委員】

・ここにしかないというオリジナルを見つけることが大事。羽咋に行ったら、これがあるという印象付けが必要。

・一度にたくさんの方が使える足湯の施設に浸かりながら、夕日を見れるという情景を思い浮かべてしまう。夕日などを道の駅で見れるようにすることはいいこと。冬の荒れて通れない時などに、大型スクリーンを通じて見せてあげるような演出もいい。

【委員】

・羽咋市は、海や神子原のような山もあり、とても素晴らしい地域だと思う。

・文化遺産などもたくさんある町でもある。

・場所的にも、協議された場所でいいと思う。

・観光客だけの道の駅ができたというのではなく、みんなが集い、地域も一緒に活性化できるような道の駅であってほしい。

・太陽光ではなく、観光客に分かりやすい風車のようなシンボリックなものがあったらいい。

・海の物も、農産物も、こだわりのある地産のものを、地域の人でも買うことができる道の駅が望ましい。ただ買い物だけをするのではなくて、癒しの空間がある道の駅。羽咋市がゆ華を取得したということを活かすことができるのではないかと考える。

・リーダーシップをとれる人に私たちの思いを伝えて、いい道の駅になればいい。

【委員】

・松林というと、松林図ではないが、松を使用した施設であってほしい。

・自然栽培という健康に留意した農産物を使って、手間をかけて加工品を作っていければいいと思う。それを道の駅で販売できればいいと思う。

・施設的には、体験型を重視してはどうか。気多大社や妙成寺などをどうやってつなげればいいのか。単に案内すればいいのか。羽咋に泊まってもらい、農業体験をさせてやるなど、提案ができる道の駅がいいのではないかと考えていた。

・まずはそんな立派なものでもなくとも、作って前へ前へ進んでいくことが大事。

【委員】

・里山海道を帰ってくるときに、米出で「千里浜なぎさドライブウェイ」の看板が出てくるが、千里浜に来ると一切ない。千里浜である以上を、そういった誘導看板があるべきだ。

【委員】

・以前大学生が調べた結果として、羽咋は情報発信できる場所がないという指摘を受けていた。その点が大事なのかなと思う。

【アドバイザー】

・展望台という話が出ていた。どんな展望台をイメージしているか。

・木造系の建物というイメージがあるが、展望台を木造にして UFO のようなオブジェを上に乗せるとかなり違和感のあるものになる。

【委員】

・もともと建物を高く作ってもらいたいと思っていたが、前回の話の中で建物全体を高くするのは難しいとのことだったので、施設からつながって展望台があればいい。

【アドバイザー】

・四万十では、レストランから四万十川が一望でき、見晴しのいい造りになっており、下

まで降りていくこともできる。

【委員】

・前回の視察の際にも、裏に川があり、もう少し工夫すればいいなと思った箇所もあった。

【委員】

・塩害などの影響も考えられるので、木造のものがいいのではないか。アスレチック的なものがほしい。

【委員長】

・いろいろな意見があるが、商品にしても、建物にしても、「千里浜」というものを共通のものと捉えるということでもいいか。

・立地場所が千里浜であり、羽咋のシンボルが千里浜であり、商品開発も含めた自然のシンボリックなものも千里浜というようなことでもいいか。

・皆さんの意見の中で、千里浜というキーワードが出てくるので、枝葉を付けるにしても、千里浜をキーワードにコンセプトを考えていくということでもいいか。

【委員】

・千里浜をコンセプトにした場合、どう展開していくのかイメージできない。千里浜を使った商品開発をするというのは、イメージしづらいので、リンクさせていくにはもう少し検討が必要である。

【委員長】

・四万十を例にとると、四万十川のうなぎなどが産物であったか。

【事務局】

・なぜ四万十でお茶ができるかというと、大きな川があり、盆地という立地により、霧が発生し、適度な湿度を保つことができるという立地条件があった。これは、四万十川の恵みを受けているということであった。川と共存し、生活の生業の一部が四万十川であるという考え方があった。すべてが循環しているとのことであった。

【委員】

・四万十に関しては、四万十の商品はお茶とクリという共通認識があったのか。

(後付けです)

・羽咋市の特産品は何か？と言ってもすぐに思いつかないが、例えばホウレンソウをたくさん作って商品開発をしようと思えばそれでいいってことか？

【アドバイザー】

- ・最初に四万十で商品としてできたものは、全く別のものではあった。
- ・川海苔などは、以前からあったもの。
- ・手作りナイフがテレビで報じられて、3年待ちの製品になったとかという話もある。ごまかして売ることはしたくないとのことで、まじめを貫いたことが、評判が上がる要因になった。
- ・資料最後に、商品が出ているが、全部発掘したもの。特産品が足りないと売り場がガラガラになるので、真剣に取り組んで出てきたものである。
- ・ヒノキのお風呂。これで経営を立て直すことができた。ノベルティで作ったもの。林業の町なので、端材が出る。ヒノキの板にして、特徴的なデザインと特徴的なパッケージにした。これを地元新聞社や電力会社に使ってもらって、1枚200円で何十万枚も売れた。
- ・委員さんからのご指摘のように、一步一步着実に進んでいった事例である。
- ・千里浜は、話が反対になっていて、道の駅を作ることから話が始まっており、後追いの形になっているが、苦しい部分ではあるが、やらなければならないことではある。
- ・四万十が有名になったのは、香り米。パッケージがデザイン賞を受賞した。普通のお米にちょっと使うだけのもの。香りがたち、古米が新米のように炊けるという商品。
- ・30kgの袋と同じデザインになっている。この商品が有名になり、高知に四万十ありということになった。
- ・新聞バッグも、上手に作ることができる1人のおばちゃんがいた。この新聞バッグを世に出そうと考えた覚悟と意思があった。以降、新聞バッグは全国に広まっている。インストラクターも育てており、石川県にもいる。
- ・委員が指摘したように、このシステムは羽咋と親和性が高いと感じている。四万十は残念ながら、世界農業遺産の認定を受けていないが、能登、羽咋は認定を受けている。世界農業遺産を实践する町というような（コピーライト的には要検討）イメージを基本的にし、商品開発をしていくのが一番現実的でもあり、能登の玄関口という位置を総合的に考えた時に、親和性が高いと思う。
- ・この点を押さえておけば、夜のイベントをどう作るかというものも、全部ここから導いていくことができるようになる可能性が高いと思っている。
- ・小矢部のような高いタワーを突然建てようという考えではないと思う。自然に近い、四万十が実践しているローインパクト：環境負荷のないもの、少ないものということで、コンセプト的には一致しているのかなと皆さんの意見を拝聴していた。
- ・道の駅を作るのではなく、そこに供給するための仕組み作りをどうやっていくのかという話があった。確かに一朝一夕でできるものではない。この仕組みを作ることの1場面が道の駅であるという認識があるかどうかは重要である。本日、そのことが話題に上がったことは素晴らしいことである。

- ・この協議会で検討すべき、コンセプトは皆さんの意見からすでに出ている。
- ・後の具体的な文言は、事務局にまとめていただければいい。その言葉を皆で検討する方が早いと思う。

【委員長】

- ・企業にしても、理念がしっかりしている企業は、時代に合わせるのではなくて、世の中に役に立つような普遍的な理念を持っているところが持続している。
- ・地域においても、企業においても、今の道の駅においても一緒だが、市民の皆さんが共通認識を持って取り組むことが大切である。
- ・委員の情報量は少ないものであるが、地域の方のご意見や主婦の方のご意見など、聞かせていただいた。次回の委員会では、肉付けしたものを事務局から提案してもらおうということでもいいか。
- ・当初全体としては、5回程度の会合ということだったが、今後どのように進めるか。

【事務局】

- ・当初5回程度ということの説明していたが、現実的に、あと数回の開催が必要。
- ・9月いっぱいを目途に、基本構想を作りたいと話していた。あくまで皆さんに協議いただきたいのは、基本計画の前段となる構想ということであり、提言に近いものである。どこで、どのようなコンセプトで、どのような機能を取り入れたらいいといったことや、生産から加工までの仕組みづくり、施設にしても自然と調和したもの、また、羽咋らしい特産品の開発が必要ですねといった形での構想づくりを皆さんにお願いしたいと思っている。
- ・そのような視点で提言いただければ、先生やコンサルとも話をし、まとめたものを皆さんに再度お示しし、ご意見をいただくというふうに進めていきたい。
- ・次回は、具体的な施設についての機能についての話をしたい。

4 その他

次回開催日：平成 26 年 8 月 20 日（水）19：00～